「事業名：人文社会科学の復興知に基づく標葉地域の循環型共同教育の実践」2022年度補助事業の実績・成果

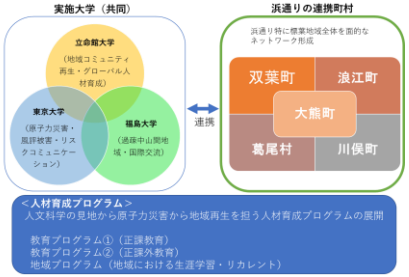
立命館大学（共同申請：東京大学、福島大学）　連携市町村：双葉町・浪江町・大熊町・葛尾村・川俣町
現地拠点：双葉郡大熊町下野上清水230（大熊インキュベーションセンター）

事業のポイント

本事業は、風評払拭、リスクコミュニケーション、生業再建、コミュニティ再生などに関する人文社会科学分野の復興知をネットワークし、東日本大震災お よび原子力災害を研究し、長期避難を余儀なくされた浜通りに関わり研究・教育活動をしてきた3大学が共同で、学生・院生の地域におけるフィールド教育、また 地域の児童および住民向け教育のプログラムを構築し、教育を通して「人」が 循環し交流する「地域循環型共同教育プログラム」を構築する。ひいては浜通り地域で活躍する人材、浜通り地域を研究する「地域循環型」人材を育成する。具体的には、大熊町・双葉町・浪江町・葛尾村等の標葉地域を中心に実践する。

今年度の活動実績

教育プログラム①	東京大学「メディア・ジャーナリズム研究指導」「原子力災害論」において現地フィールドワークを9月に実施。また福島大学において、「Fukushima's History and Culture 」として、福島大学に在籍する交換留学生・正規留学生・研究生・日本人学生を対象にし、福島の震災後の１０年間の歩みについて学習した。
教育プログラム②	立命館大学「チャレンジふくしま塾」を8月・11月・12月・1月・2月に現地で実施した。導入学習として浜通り全体を現地視察したのち、関心のあるテーマごとにグループに分かれ、現地の課題の発見・解決方法の検討を行う展開活動を行った。活動の成果については振り返りの機会を3月に実施予定。のべ169名が参加した。
地域学習プログラム	福島大学が葛尾村をフィールドに帰村状況に関する全戸調査（40戸）を役場・地域団体と連携し実施。のべ36名の学生が参加した。 立命館大学が川俣高校で中学生・高校生を対象とした出張授業を実施。中学生10名、高校生5名、職員4名が参加した。

今年度の成果

2022年度は、2021年度に引き続き、教育プログラム①、②、地域プログラムを実施した。教育プログラム①では、東京大学・福島大学を中心にオンライン環境を併用しつつ、現地フィールドワーク学習にも取り組んでいる。教育プログラム②では、主に立命館大学が「チャレンジふくしま塾」として現地フィールドワーク学習を実施している。地域プログラムでは、主に福島大学が葛尾村役場や村内の地域団体と連携し、集落調査実施に向けた準備に取り組んでいる。さらに立命館大学は川俣高校において現地の生徒を対象とした出張授業を実施しており、今後も継続予定である。「解のない課題」に挑戦する人材育成に向けた、来年度の本プログラムの「中間見直し期」につなげる成果が得られた。